

# 至誠通天

藤井 勇治

※至誠通天  
誠を尽くせば天が  
味方してくれること

## 3期目のスタート 「挑戦と創造」の精神

この度の市長選挙で大勢の市民の皆さんの力強いご支援とご厚情を賜り、引き続き長浜市政を担うにあたり、その職責の重さに身の引き締まる思いであります。皆さんのご期待に応えるべく、決意を新たに、市政の確かな発展に向け、全身全霊、全力投球してまいります。

長浜市は1市8町が合併して12万都市として誕生しました。私はこれまでの2期8年間、さまざまな施策を実行し、湖北・長浜を創造するための礎として土を耕し種を蒔き太陽をあて肥料を与え、そして市の活力となる鮮やかな花々を咲かせてきました。そして次は、咲かせた花々の果実をしっかりと実らせる時であると思っています。

3期目は未来に向け、「挑戦と創造」を新たなスローガンに、力強く市政を推進するために次の5つの柱を掲げました。①子育て応援の加速②教

育の充実③福祉・医療の拡充④経済の活性化⑤行財政改革の推進です。これらの施策の実行にあたりましては、市長就任当初から市政推進の3原則「オープンで開かれた市政」、「公平で平等な市政」、「市民目線の市政」を軸に、湖北・長浜を愛する信念と情熱、行動力を持って、粉骨碎身の覚悟で立ち向かっていきます。

私は今日まで、市民の皆さんとの「座ぶとん会議」や「市長を囲む会」、さらに地域の会合やイベントに積極的に向いて、大勢の皆さんの意見を聞き、語り合ってきました。引き続き、皆さんと一緒にスクラムを組んで未来に希望が持てる長浜市を創造するために力を結集していきます。何卒よろしくお願いいたします。



▲3月5日の初登庁セレモニーの様子

## 市立病院通信 64

## お元気ですか

市立長浜病院脳神経外科  
部長 佐藤 岳史

### パーキンソン病に対する 深部脳刺激療法

パーキンソン病は、脳の黒質という場所のドーパミンという物質が減少することにより体の動きがうまくいかなくなる病気です。振戦（ふるえ）、筋強剛（筋肉が硬くなる）、動作緩慢、姿勢保持障害（転びやすさ）を主な症状とします。日本の患者数は人口10万人あたり150人程度とされています。

パーキンソン病が疑われる場合、まずは神経内科などの受診が勧められ、診察、MRIなどによる他の病気の除外、レボドパ投与の効果判定などが行われます。補助診断としてドーパミントランスポーターシンチグラフィなどを行うこともあります。臨床経過も重要な判断材料になるので、すぐに診断が確定しないこともあります。

治療の基本は薬物療法です。ドーパミンの前駆物質（L-dopa）

の投与から始まりますが、他にも様々な薬があります。また、脳深部刺激療法（DBS）という手術が行われることもあります。全ての症状が改善するわけではなく、手術に伴う合併症もあり得ますので、手術が勧められる患者さんは限られています。手術は淡蒼球内節、視床下核などに刺激用の電極を挿入します。電流を供給する電池は胸部前面に埋め込み、その間を、皮下を通した電線で接続します。刺激の調整は胸部に埋め込んだ電池の部分で行います。パーキンソン病の人は、薬の効果持続時間が短くなることがあります。DBS手術をすると症状の底上げをして、薬が効かない間の症状を緩和できることがあります。また、薬の効果を肩代わりし、ジスキネジアなどの副作用が出る薬を減らすことができることもあります。

パーキンソン病は長期にわたって進行する病気ですので、長く付き合うことになります。そのため、その経過中に手術療法も薬物療法の補助として考慮してもよいかと思えます。

市立長浜病院  
☎68-2300（代表）

## ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、449件※ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介します。

※平成30年1月1日現在

### 県指定無形民俗文化財 中河内の太鼓踊附奴振

指定日：昭和61年3月28日指定

保護団体：広峯神社太鼓踊保存会



▲広峯神社境内での太鼓打ち・鉦打ち

余呉町中河内は、長浜市の最北端にある福井県境の集落で、県内屈指の豪雪地帯として知られています。戦国時代、柴田勝家が越前と安土を結ぶ軍用道として北国街道を整備しました。これにより、江戸時代には、北国街道の宿駅として急速に栄え、北陸の大名がここから中山道を経由して江戸へと参勤するだけでなく、一般の通行人や諸荷物の輸送にも利用されるようになりました。しかし、明治に入ると北陸の大名たちの行列が消え、さらに長浜・敦賀間に鉄道が開通すると、人や物の往来も途絶え、宿駅としての発展の道は閉ざされてしまいました。

中河内の太鼓踊附奴振は宿駅として栄えていた時代あたりから行われていたと考えられます。もともとは村の若い衆を中心に広峯神社で行われる8月16日の野神祭に奉納されていました。その後、その後は保存会によって行われるようになりました。昭和32年以降は3年に1度奉納されていましたが、平成に入り1度だけ奉納されたのを最後に現在は過疎化による担い手不足のため行われていません。

太鼓踊りは、孟宗竹の枝に無数の色紙で作った短冊をつけたものを、三

重の帯を取り付けた帯台とともに背負い、胸に締め太鼓をくくりつけた「太鼓打ち」2人と、鉦をたたきながら踊る「鉦打ち」2人によって奉納されます。太鼓打ちの衣装は、白鉢巻き、袖なしの甚平、手首と肘には色紙を細く切った飾りと手甲をつけ、下は股引、脚絆、足袋、草鞋履きです。鉦打ちは、上は太鼓打ちと同じで、下は緋の腰巻・前掛を上衣とともに黄色の帯で締め、背中に大きな紅白の熨斗を差し込み、脚絆、足袋、草鞋履きです。踊りに欠かせない音頭取りと笛吹きは、紋付羽織姿で参加します。

夕方、広峯神社でお祓いを受けた後、境内での仙松踊りから始まります。そのあと能登半島の七尾にでかけている氏神を出迎えるため村の外れまで行き、山伏踊りを奉納します。行列は、奴振りが先導し、神輿や太鼓打ちたちがあとに続きます。奴振りは、大名行列に槍や挟箱などを持って子供をする人が行う所作のことです。一行は、北の宿前で長者踊り、秋葉神社前で鎌倉踊り、南の宿前で井口踊り・長者踊りが行われ、広峯神社に戻ると、太鼓・鉦・笛で宝踊りが奉納されます。奴振りは、行列を広峯神社まで届けると、



▲奴振り勢揃いの様子

伊勢音頭を歌いながら帰っていきま

す。この中河内の太鼓踊りを含め、かつて近江（滋賀県）には200を超える太鼓踊りがあり、そのうちの6割は湖北地域に集中していました。とても残念なことですが、それら多くの太鼓踊りは、中河内の太鼓踊りと同様、担い手不足などにより、現在ではほとんど行われていない状況です。